

公共施設の 未来を考える

今、全国的に公共施設の老朽化が問題となっています。人口減少や少子高齢化による影響は、私たちが利用する公民館や図書館などの公共施設にも及びます。
未来の世代のためにできることは何かを考えていきます。

※本特集の公共施設とは、公共建築物を指します

問 アセットマネジメント推進課管理・計画係（内線 2462）

現在、久喜市には182の公共施設が存在しています。その約7割が築30年を経過しているのをご存じでしょうか。

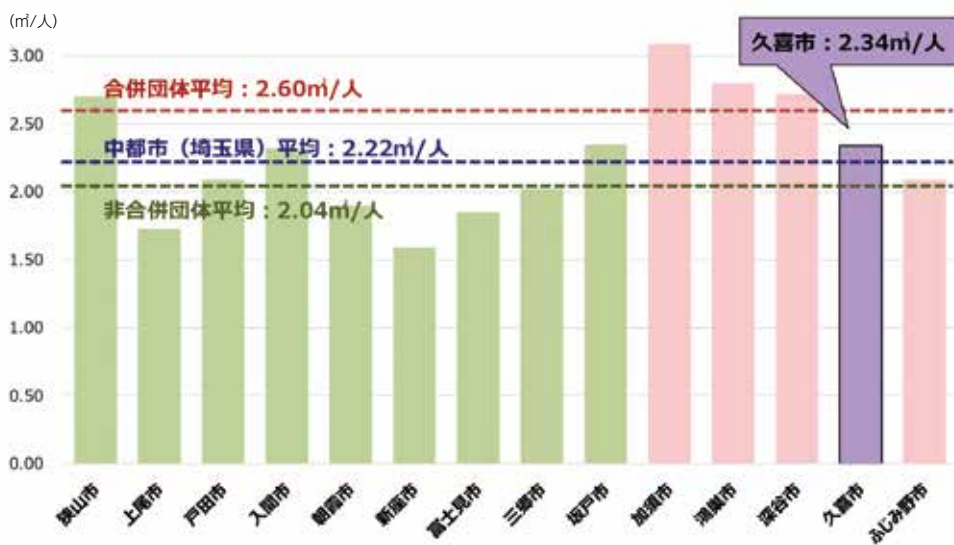
本市では、昭和50年代から60年代にかけて、人口の急増や新たな市民ニーズに対応するために多くの公共施設が集中的に整備され、市民生活の利便性や福祉の向上に寄与してきました。

しかし、整備から30年以上経過した現在では、公共施設の老朽化が進行しており、これから一斉に改修や

市内の公共施設の 約7割が 築30年を経過

各施設で老朽化が進み、安全面やサービス面での支障も懸念されています。

埼玉県内同規模自治体との比較 (市民1人あたり延床面積)



建替の時期を迎えることから、多額の費用が必要になると考えられています。

また、市民1人あたりの公共施設の所有量(延床面積)は県内の同規模自治体の平均を上回っています。

3町がそれぞれ独自に整備を進めてきた公共施設を全て新市に引き継いだことから、類似施設の重複や将来的な余剰施設の発生が見込まれます。

※公共施設延床面積は公共施設状況調査(2017年)、人口は国勢調査(2015年)に基づく
 ※グラフ中、緑は非合併団体、ピンクは合併団体を表します。